

# 調査研究部報告書情報シート

記入年月日:2014年4月7日

情報No.	S-14-1	情報区分	プラ循環協調査報告
-------	--------	------	-----------

題名 報告書名	2013年度 産業系廃プラスチックの排出、処理処分に関する調査報告 (第4回産廃大規模調査)				
報告年月	2014年3月	ページ数	146	著者・出版元	プラ循環協

【キーワード】

処理方式		要素技術	
樹脂類別		化学物質名	
形状別		用途別	
法規制		国別	日本

調査研究内容	<p>【調査の背景と目的】</p> <p>本調査は、産業系廃プラスチックの排出および処理処分状況を把握するために、5年毎の長期動態調査として設計され、今回が第4回目の調査となる。</p> <p>廃棄物の状況が大きく変化すると予想されるなかで、産業系廃プラスチックの排出および処理処分状況を長期にわたって把握することは、単に現状の把握のみならず、企業の今後の対応や国の施策立案にとっても極めて重要な取組みとなる。</p> <p>【調査の概要】</p> <p>調査対象は、産業系廃プラスチックを大量に排出する、あるいは各種リサイクル法に関連する製造業の7業種。1,500事業所にアンケートを送付し、24%から回答を得た。同一事業所でも発生状況や樹脂の種類毎に調査票を提出してもらっており、有効調査票は約1,400票であった。</p> <p>アンケートでは廃プラスチックの排出や処理処分に関する14項目について調査した。</p>
調査結果	<p>【調査結果】</p> <p>報告書には14項目の調査結果が全て記載されているが、ここでは「年間発生量」「処理処分方法」について概要を記述する。</p> <p>1) 廃プラ発生量</p> <p>今回の第4回調査では、第3回調査と比較して全ての業種で発生量が減少しており、全4回の調査の中でも最も発生量が少ない。企業の排出削減努力の成果だと思われる。</p> <p>2) 処理処分方法</p> <p>処理処分方法別の廃プラスチック処理量は、今回の第4回調査では、第3回調査と比較して固形燃料・セメント工場、特に固形燃料が増加し、再生利用が減少している。</p> <p>3) 有効利用率</p> <p>有効利用率は、第1回調査から今回の第4回調査まで着実に増加しており、当協会が発行しているフロー図と同様の傾向を示している。第4回調査の有効利用率は全体で95%であった。</p> <p>【廃プラスチックの排出量(環境省調査)】</p> <p>環境省が毎年公表している「産業廃棄物排出・処理状況調査報告書」の解析によると、全業種に占める製造業の比率は60%前後で推移していたが2007年度以降は減少傾向にあり、2010年度は52%である。</p> <p>第4回調査の調査対象の7業種が占める比率も、以前は40%前後で推移していたが2010年度は35%である。</p>
備考	